

人権施策推進審議会第 12 期第 3 回会議 会議概要（抜粋）

①資料全般について

委員

資料の内容ではなく形式に関して、条例に基づく関連施策の実施状況の報告ということであるが、資料の量が非常に多く、これを読み解くのは大変である。また、「人権」は行政の施策全般にわたって配慮が必要なものであり、人権施策推進課のみで全ての関連施策を熟知されているものではないと思われるため、この場で事務局が委員の質問全てに回答されることも困難である。

本日の会議でも、事前質問の回答は準備されていたと思うが、概要版の内容を充実させるなど、報告資料そのものを見直していただければ、審議会での議論もより深まっていくのではないか。「こうすればよい」といった提案を今すぐにできる訳ではないが、委員としてこの資料を読み解くのは中々難しいと感じているので、また来年度に向けて、この場で議論がしやすい資料に見直すことを検討していただきたい。

事務局（人権施策推進課）

ただ今いただいたご意見に関しては、事務局としてもこれまでから課題として認識していたところである。今回の計画改定においても、「分野別施策の推進」の分野が13から20に増加しているため、このままでは報告資料の量がさらに増加することが想定され、皆様にさらなるご負担をかけてしまうおそれがある。また、庁内においても、資料を作成する各担当部局の負担の増加が無視できない状況になると考えられる。

については、来年度に向けて、報告の資料や方法がこのままでよいのかどうかを検討し、具体的にどうするのがよいのか見直していくことが必要であると考えており、次回以降の会議では、この件を議題の一つとさせていただきたい。

②資料 1-1（概要版資料）について

委員

資料 1-1 全体として、各事業の実績数値が何件ということはそれぞれ書かれているが、ではその件数をどのように評価するのかということが見えてこない。評価が難しい事業もあると思うが、可能なものは評価が書かれていてもよいと思うし、「さらなる拡充につなげる」といったことがあってもよいのではないか。抜粋なので仕方がないとも思うが、淡々と「実施した」ということが書かれているので、「はい、そうですか」としか見られない。

それぞれの数値にどのような特徴があるといったことがあれば、この実施状況をどのように見るのか、あるいは次の施策の展開にどうつなげるのか、という議論もできるのではないか。（以下略）

事務局（人権施策推進課）

（中略）各事業の評価に関しては、以前にも当審議会でご意見を頂戴したところであり、資料1-2の「施策（事業）の達成度」欄に各担当課の自己評価をAからDまでの4段階で記載している。この評価を皆様とも共有させていただくことで、今後の改善に努めてまいりたいと考えているところであり、ご助言等をいただくと幸いです。

委員

（中略）また、各事業の評価に関しては、数値としての達成度ではなく、内容として目標がどれだけ達成できたのか、ということである。障害者に関する事業であれば、「理解がどれだけ深まったのか」や「地域の対応がどれだけ変わったのか」、また対象者の感想の内容等、実際に事業を実施した事業所や学校、地域の反応が分かるとよいのではないかと。『評価』までは行かずとも、感想が少しでも書かれていれば、担当者も必ずしも数値を増やすことが目標ではなく、意識の浸透を図ることが目標であるといった形で捉えることができると思うので、そうした視点も欠かさずに評価をしていただきたい。